

# 令和 4 年度 事業 報告 書

## 1 事業 の 実施 報告

令和 4 年度の事業は令和 2 年度以降継続する世界的な「新型コロナウイルスの感染拡大」の防止政策の影響を受けて、**RASA-Japan**（以下「**RASA**」と称する）本来のフィリピンでの人道支援活動が思うに任せず今年で 3 年が経過しました。

**RASA** の活動の特徴はその支援場所がフィリピンの「いなか」であるので、現地に行つての支援活動、事業展開は十分にはできませんでした。

個別の事業実施状況を活動した事業内容別に報告させていただきます。

### (1) 学校建設事業

計画したブラカン州の建設場所が湿地帯であり僅かな雨でも浸水被害が起きる環境でした。

そのため建設場所を大幅に嵩上して地盤改良の上、教室建設をする事にしました。嵩上の費用は現地が負担することで決まりましたが、**RASA** は建設資材等の高騰で大幅な予算不足、実際の資金確保に向かつて、初めて大きな挑戦—多く方のご支援のおかげで、クラウドファンディングに成功し、資金確保できたことは昨年の報告書の通りです。

工事は予定通り 1 月 5 日着工、7 月に竣工いたしました。教室として使うための机椅子、照明や黒板の設置、校舎の塗装などの細かな部分の仕上げも予定通り 6 月中には終了し教室として利用可能となりました。

7 月 15 日に竣工式が現地で行われ、招待された理事長と理事 1 名が出席いたしました。

完成した校舎は嵩上され左部分が階段（健常者）、右部分は緩やかな手すり付きスロープ床、

身体障害児童のため車椅子が可動できるものです。体の不自由な児童が自分で動ける配慮がされた校舎になっておりました。校長の説明によりますと「妊娠中の母体の栄養不足が胎児の発育を阻止して障害児が生まれ易い。食生活における栄養不足が原因で身体障害者出生比率は高い」そうです。

他校にも障害児が日本より多くいるようで、サウスビル I 小学校にもみられます。今回のように障害児童の教育対策に取り組んでおられるのは、まだまだ少ないようです。教室にはモジュール授業対応のカラーT V が設置されるなど、教育設備も充実され、教材を使って指導の先生から個別に授業を受けている動画が感謝の手紙と共に送られてきており、彼らの幸せを願わずにはおられません。

## (2) ボランティア派遣事業

ボランティア活動は学校建設ボランティアと給食支援ボランティアと2種類の活動があり、今までメインに実施してまいりました。

例年では学校建設活動に学生ボランティアを約 40 名、給食支援に約 10 名を引率するのが恒例となっていました。しかしコロナ禍が 3 年経っても収束せず、渡航も困難な状況で両活動とも実施不可で派遣は今年も中止せざるを得ませんでした。関東地区の大学生、名古屋在住の大学生等から **RASA** のボランティア活動に参加したいとの問い合わせが数件寄せられました。残念ながら今年もお断りせざるを得ませんでした。

日本の大学の対面授業再開後のボランティア派遣事業については、現地の物価上昇や渡航費の上昇などを考慮した上で、次年度以降の募集要項を検討して、前向きに対応したいと思います。

### (3)食品配布事業

経緯は 2011 年に 5 千人以上の在籍児童を抱えるサウスビル I 小学校へ贈呈する、3 つの新教室増築工事の建設中に、PTA 会長から緊急に飢餓児童の給食支援を頼まれ、兎に角救いたいと予算もないのに、民家で始めたのが **RASA** の給食支援の始まりです。この場所がやむなく使用できなくなり、移転先を捜しても見つからないので、中止迄考えていたとき、給食を受けていた 6 年生の児童が餓死したのです。丁度現地に滞在していた時でその女の子は、10 人きょうだいの最年長で下の子の面倒も見ていました。給食の受給児達は 1 日 1 食がやっと、それもお腹が膨れるだけの食品で、背は低く痩せていて、小学生でも日本の幼稚園児くらいでした。風邪くらいで亡くなるとも聞きました。とても日本の児童と比べものになりません。その実情を知ると、何としても給食を止めるわけにはいかないと決めて帰国後、直ぐにサウスビル I のアイダ校長先生に「給食を続けるために、給食場所の提供と給食の実施管理を学校でしてほしい」と 3 回手紙を出しました。待っても待っても返事が来ず諦めかけていたのです。学校には固定電話すらありません。2 ヶ月後にやっとアイダ校長先生から、「準備に取り掛かっている」と返事が来たのです。では次にその裏付けとなる資金をどうしようか。それから予算獲得に奔走しました。東京の町田市の「手を貸す運動 II」へお願いに行き、映像で説明し懇願しました。会の代表で、長年海外の支援をされている佐藤ご夫妻のお力で直ぐ大きな支援をいただけることになったのです。その後も、継続して欠かすことなくご支援いただいております。こうして 2015 年から学校が選んだ 100 人の栄養失調児童の学校給食が始まり、その後は 5、6 年生を対象にして、彼らが空腹で学校を中途退学することなく、小学校を全員卒業できるようになったのです。空腹で

休んだり、中途退学する児童を皆無にしたいと校長先生の意気込みを感じました。

こうして 2020 年迄校内での給食活動は順調に継続しその効果が体位や学力向上にはっきり出ていました。ところがコロナ感染で、政府による厳しい外出制限から学校閉鎖命令へ。児童へは給食の代わりにできる支援は何かと考えて残りの予算で食品配布をしたところ、実にタイムリーな支援であることが判明して、これを実施することにしました。すべてメールでのやり取りです。校長先生の強い希望で、全学年の栄養失調児（幼稚園から 6 年生まで各学年 20 名）140 名を支援することになり、予算も直接費だけで 40%増、その他に実際商品の調達、保管、経理管理も可能な支所を現地に設置することが必須です。間接費と合わせ、大幅な予算増となりました。日本もコロナ禍の厳しく長い規制が続いたり、ウクライナ被災支援などで寄付金が集まりませんでした。しかし助成金や温かいご支援のおかげで何とか見通しが立ちました。支援児童数 140 名、児童の選択基準、年度半ばで選択の見直しを行うなど、児童が出来るだけ公平に支援を受けられるように約束しました。児童の選択はコーディネーター 2 人が担当、順調に支援活動が進められてこられた矢先、世界的な物価高騰の影響で食品価格の上昇により、配布食品を減少せざるを得ませんでした。今迄どおりの食品数に戻せるように、2 月から物価上昇分をプラスした額で送金しています。

### **RASA** の現地支所について

受給者へ直接食品を手渡すまでの仕事を引き受けてくれる責任者を選定して、校長先生にも承認を得ました。まずは、食品の購入、140 人分の配布準備、保管、学校への運搬から配布そして会計管理まで全責任を確実に果たしてくれています。学校のスケジュールに沿って、2 週間毎に学校で配布しています。コロナ禍で蜜を避けるため受取時間を人数毎に決めています。

予算内でできる限り多くの食品を配れる工夫として

- 米は精米所で直接購入配達を頼む。
- 遠方でも割安な大型スーパー迄出かける。
- チラシを見て比較する。
- 購入状況、保管や配布状況、受益者の1人1人の写真は、毎回送付。
- 会計報告は支出したレシートと共に、**RASA**からの送金額の通帳の入出金の記録報告。

足と頭で配布の工夫と努力をしています。

**社会貢献賞受賞**・・・昨年度に続いて表彰を受けることができました。これまではラグナ州

のカブヤオ市という狭い範囲からの表彰でしたが、今年度は表彰対象地域がラグナ州だけでなくフィリピン全国 81 州を 17 の地方に区分された首都圏といわれるカルバルソン（ラグナ、カビテ、バタンガス他の計 5 州）の内から選出された 20 団体の内上位 6 位に表彰されました。

今回はより広域から選定された表彰で人道支援と教育支援にも貢献する実績が大きく評価された証です。これは **RASA** の誇りになり、ご支援者の方々全員で受けたものであります。

大変感激いたしております。謹んでご報告いたします。

### 現在の食品配布の状況

対象人数・・・140 名（学校が選定した重度の栄養失調児童）

配布食品・・・1 回米 5kg、缶詰 3 缶前後、卵 10 個、粉ミルク 8 袋、ヌードル他

費用・・・1 人 40 ペソ（約 100 円）/1 回 頻度 2 週間に 1 回

課題・・・1.急激な円安と食料品自体の値上がりで缶詰（貴重な栄養源）配布が困難。

量確保が困難。

2.食品配布物の購入、運搬、袋詰めまでの計量や品揃えを、**RASA**の支所責任者が自家用車や自宅で行い、配布日に受領のチェック。準備を整えても、学校施設が使えないため、配布が月1回となったこともある。戸別配布することは、広域であり労力面で不可能。学校のスケジュールが急に変更になる等、配布スケジュールが計画通り行かなかったことがある。

## 2 会 議 に 関 す る 報 告

### 通 常 総 会

|      |  |
|------|--|
| 開催日時 | 令和4年6月4日（土）午前10時   |
| 開催場所 | カトリック平針教会会議室（日進市）  |
| 社員総数 | 53名　本人出席　32名<br>委任状出席　21名  |
| 審議事項 | 第1号議案　令和3年度事業報告<br>第2号議案　令和3年度決算報告<br>会計監査報告<br>第3号議案　令和4年度事業計画の承認について<br>第4号議案　令和4年度特定非営利活動に係る予算承認について<br>第5号議案　役員選任の承認について |

### 理 事 会

|      |  |
|------|--|
| 開催日時 | 令和4年6月4日（土）午前9時から9時30分                       |
| 開催場所 | カトリック平針教会会議室（日進市）                            |
| 出席理事 | 藤井 典夫、藤井 忠子、山田 孝子、本田 直文<br>寺尾 嘉泰、山本 良治（全員出席） |
| 審議事項 | 令和4年度総会に付議する議案の審議　役員選任の件                     |

## 月例会（理事会を兼ねる）

趣旨 通常 理事 6 人、事務 1 人、監事に呼びかけ、仲間と関わりながら議論、決定。

活動実施へ NPO 法人としての仲間意識をもち、またアンテナを張って  
社会の動きをとらえながら、目指す活動を進めて行く。

### 開催日時と場所

毎月開催しており、月 1 回開催が 9 回、月 2 回開催が 3 回、合計 15 回

場所は **RASA** 事務所で実施。

法人及び関係団体や個人が関係するボランティア、イベントなどに関する情報の共有  
化を図り計画的に業務遂行が行われるようにしている。月例会は全理事出席が義務づ  
けられ、理事会として位置づけられている。

出席者 理事長以下全理事、監事、事務員、その他当法人が認めた者

### 主要な決定及び確認事項

- ・第 13 回定時総会、理事会開催日程について
- ・認定 NPO 法人更新

2022 年 5 月 13 日市民活動推進センター川口千春様から下記の通知受け取る

平成 29 年から令和 4 年（2017~2022）迄の更新認可を得て、

令和 4 年 2 月 16 日から 9 年 2 月 15 日迄（2022~2027）

- ・事業復活支援金の支給決定の通知を受けた件

### 月例会での令和 4 年度の主な協議事項（抜粋）

- ・役員報酬について再考する。役員監事は、今の規定では無報酬であり賄費を受け取らない。支払う場合は役員報酬規程の変更を検討することになっている。



- ・ブラカン州バラグタスセントラル小学校の竣工式について 理事長と藤井忠子理事  
で出席を決定。
- ・7月に教育省長官ルネ氏から次期の学校建設の打診を受けたが、現在では  
資金不足で、準備ができたなら声掛けると伝えた。
- ・7月 寄付金募集の企業訪問に向け上場企業からリスト作成。コロナ解除後活動を目  
指し、訪問分担を決める。9月以降訪問を決めて連絡をしたが、何れもコロナ下という理  
由で断られ、企業訪問はコロナ沈静後へ延期することとなった。
- ・2022年度フィリピン教育省とサウスビルIとで、食品配布契約書を取り交わし報告。
- ・例年呼び掛けがある「地球愛祭り」に今年も参加し、活動のアピールと寄贈衣料等を販売。
- ・ニュースレターの内容構成について（全発行分）各自提案
- ・タイム技研(株)会長（大口支援）12月御礼訪問、多額の支援金をいただく。
- ・3年ぶりにコロナ規制緩和で開催された平針教会のミニバザーに出店し、活動アピ  
ールと支援者寄贈衣料やアクセサリーの販売。3日間準備した手作ケーキ等4種販売。  
「手を貸す運動II」佐藤様の作品カードの販売。
- ・南山大学キリスト教センターのバザー出店 大学内で不可能だった **RASA** の活動ア  
ピールを3年ぶりに2日間行えた。豚汁販売。売上金と材料費全額支援いただく。
- ・市民活動推進センターから案内があった官公庁使用後の格安パソコンの応募に合格。
- ・理事長の後継者の確保  
理事長の高齢化に伴い、後継者問題が急務である。  
リクルートやコンサルタント系で考慮する。事業継承にあたり理事会で十分検討して2年  
後には、新しい理事長を決められる方向で進めている。

**RASA** の財政では、理事や若い実務継承者に報酬を支払えないという大きな問題があり将来の課題として検討を深めていく。

- ・ ボランティア人材募集のサイトも検討。
- ・ 食品配布活動のメインスポンサー「手を貸す運動Ⅱ」に近況報告をする。
- ・ **寄付金の新しい集め方の提案**

NPO 対象の寄付システムの導入を検討中。

ボランティア OB、OG やクラウドファンディングの支援者などが手軽な送金手段で支援し易い方法が広がっている。手数料がかかるが、管理や奨励もやってくれる。2つの候補が挙がっており、其々の特徴を検討し、前向きに実行に向けて進めていく。

- ・ **RASA** の活動の柱である学校建設活動は 2025 年 2 月再開を目指したい。

2024 年春から募集予定、参加費は 25 万円以上は必要。航空運賃（オイル高）高騰、建設地決定後に、大学でボランティア募集可能。